

第 75 次 印旛地区教育研究集会
(社会科教育・小学校)

自然災害を身近に捉え、自分にできることを進んで考える社会科学習



印西市立いには野小学校
丸 恭典

1 研究主題

自然災害を身近に捉え、自分にできることを進んで考える社会科学習

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

近年、地震、津波、火山、台風、集中豪雨など、多数の自然災害が頻発し、甚大な被害をもたらしている。2024年の1月1日には能登半島地震、8月8日には、宮城県東部の日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生した。その後「南海トラフ地震臨時情報」、約2時間半後に「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表された。また、首都直下型地震も近い将来発生するとされている状況である。

このような状況のもと、第4学年では、自然災害からくらしを守ることにについて学習をする。地域の関係機関の人々が、様々な備えや協力をして自然災害に対処していることを調べる過程を通して、自分自身の安全を守るための行動を考えたり、自分たちにできる備えを選択・判断したりすることは、将来起こりうる災害に対応していく上でたいへん重要であると考えます。

(2) 学習指導要領から

本実践は、学習指導要領解説社会編の第4学年の目標及び内容を受けて設定している。

内容(3) 自然災害から人々を守る活動について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

(イ) 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

これらの学習において、「小学校学習指導要領解説 社会編」では、「県内で様々な自然災害が度々起きていることや、自然災害は気象や地象の状況と深い関係があることなどを踏まえて、日頃から気象庁の情報や防災情報、地域の地理的環境などに関心を持ち、災害が起きたときに自分自身の安全を守るための行動の仕方を考えたり、自分たちにできる自然災害への備えを選択・判断したりすることができるように指導することが大切である。」とされている。これを実現するためには、児童が自然災害を身近に捉え、自分たちにできることはないか進んで考える意欲を高めていくことが重要である。

(3) 印教研社会科研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習

～自ら課題を見だし、自ら考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～

本実践では、印教研研究主題にもある、よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習を目指している。身近な地域の災害を教材にし、地域の方から被害の状況を聞いたり、市役所の方から防災倉庫の中を見せてもらったりすることによって、地域の人々が、自然災害に対して様々な備えや協力をして対処していることに気づき、身近に感じることができる。

この学習を通して、災害に備えるということをきっかけに、地域の人に関心を持ち、進んで地域に関わろうとする意欲や公助・共助・自助の面から自分にもできることはないかと考えられる児童を育みたい。

（４）先行研究から

第73次印旛地区教育研究集会の四街道市立和良比小学校 荻原 駿太教諭の実践「地域社会への参画意欲を高める社会科学習～4年『自然災害からくらしを守る』を通して～」において、「ICT機器を活用して資料提示をすることで、児童は主体的に学習に取り組むことができた。」とある。このことから、ICT機器を活用した資料提示に取り組む。さらに、自ら過去の災害を調べたり、県のサイトにある「じぶん防災」や「こども防災」の資料を活用したりして児童が主体的に学びに取り組めるようにする。

また、第71次千葉県教育研究集会の旭市立中央小学校 石毛 千尋教諭の実践「児童の意欲を高め、主体的に学習に取り組むことのできる社会科学習の在り方～東日本大震災を教材とした『公助・共助・自助』の取り組みを通して～」において、「東日本大震災での地震、津波被害を教材化したことは、自然災害への関心を高められ、災害に対する取り組みについて考えるためには有効であった。」とある。このことから、本研究でも導入において東日本大震災があったとき本校で勤務していた教員を招き、東日本大震災があったときの本校や校内周辺の被害状況を聞く。

先行研究との違いは、本校の学区は災害に強い地域であり、津波、液状化、揺れやすさ等の心配がない。過去の大地震でも被害が少ない。このように、比較的安全な地域においても自然災害を身近に捉えられるように研究を進めていく。

（５）児童の実態から（4年1組35名）

本校は、平成12年に千葉ニュータウンの一番東側に宅地造成された地区に設立された。その後、平成31年4月に印西市立宗像小学校と統合したため、学区が広がり、スクールバスで通学している児童もいる。また、原小学区から区域外通学をしている児童もいる。学区が幅広く、家族構成や家庭状況など様々な児童がいる。

事前アンケートの結果から、「学校の避難訓練に真剣に取り組んでいますか。」という質問に対して、100%の児童が「はい」と答えていることからわかるように、本学級の児童は、素直で明るく、学習面でも生活面でも物事を一生懸命行う児童が多い。災害に対する知識も高く、約半数の児童が「公助・共助・自助」という言葉を聞いたことがあった。しかし、保護者に対するアンケート「災害が発生したとき、自分や家族が被災する可能性を感じていますか。」という質問

に対して、「強く感じる」と答えた保護者は3割であったことからわかるように、災害に強い地域のため、自分たちが被災するかもしれないという現実味や危機感をもつことができていない。そこで、いつ、どこで起こるかわからない災害において、自分や家族が被災をするかもしれないという現実味や危機感をもった上で、その災害に備えたり対処したりする力をつけさせたいと考えた。

以上のことを踏まえ、本主題を設定した。

3 本実践でめざす児童の姿について

児童の実態等を踏まえて、本実践でめざす児童の姿を以下の3点とした。

- ・ 自然災害や人々の対応について理解する児童
- ・ 起こりうる災害を想定し、自分にできることを考えられる児童
- ・ 自然災害への対策を通して、家族や地域に進んで関わろうとする児童

4 教材について

本実践では、導入で東日本大震災を取り上げる。東日本大震災があったときに本校で勤務をしていた方をゲストティーチャーとして招き、地震の揺れによる被害の大きさ以外のところで帰宅困難、ガソリンの購入困難、放射能問題などを問題があったことを扱う。また、地震に限らず、県内で過去に起こった自然災害を調べることで今後起こりうる災害にどう備えていけば良いか考えたり、災害や場所によって備えや対処が異なったりすることを考えさせたい。

5 研究の目標

第4学年「自然災害からくらしを守る」の単元において、学区で起こった過去の自然災害を教材化し、ゲストティーチャーの話を聞くことで、自然災害を身近に捉え、自分にできることを進んで考えられるようになることを、実践を通して明らかにする。

6 研究の仮説および手立て

【仮説1】

身近な地域における災害を教材化することで、自然災害や人々の対応について理解し、自然災害を身近に捉えることができるであろう。

【手立て①】地域素材の教材化

学区で起こった自然災害を教材化して取り扱う。そこから、これまでに千葉県で起こった自然災害を調べることで、いつ、どこで自然災害が起こるかわからないということを理解できると考える。さらに、地域によってどのような災害が起こりやすいかなどの違いにも気付くことができると考える。

【手立て②】ゲストティーチャー等の地域人材の活用

「調べる」過程では、市役所の危機管理課の方、いには野地区の自主防災会の方の2名をゲストティーチャーとして話を聞いたり、防災倉庫を見せてもらったりする。自然災害に備えて様々な人が協力しながら対応していることを理解できると考える。

【仮説2】

自ら問いを持ち、必要な情報を活用すれば、起こりうる災害を想定し、自分にできることについて進んで考えられるであろう。

【手立て①】問いの解決に向けた情報の提示

自らの問いの解決に向けて、必要な情報を選択できるように様々な情報を提示する。例えば、「こども防災」や「じぶん防災」といった資料を共有アプリに送っておくことでいつでも確認したり活用したりできるようにする。他にも、視覚的な情報として、印西市内の被害状況の写真や地図アプリを提示する。自然災害の怖さを写真で実感したり、自分の避難経路を確認したりすることができると考える。さらに、自分の家の防災バックの中身や防災対策を家族へインタビューすることで、「自助」の面において、課題となる問いやそれを解決するための話し合いをできると考える。

【手立て②】わたしだけの防災マニュアル作り

本実践の「まとめあげる」過程で、「わたしだけの防災マニュアル作り」を行う。自分の家のある場所や家族構成、親の勤務場所など様々なことを想定して、災害があったときどのような状況になり、自分はどの行動すればよいか想像してマニュアルを作成していく。また、災害はいつ起こるか分からないことから、自分がよく行く場所や旅行先を想定したマニュアルを考えたり、災害ごとの対応の仕方をまとめたりすることで、災害の備えや対処について主体的に考えるようにさせる。

7 単元計画 11 時間

過程	時数	学習内容と学習活動
見いだす	1	○東日本大震災のときに本校にいた職員に当時の被害について話を聞く。 仮説1 手立て① ・揺れによる被害は少なかったが、帰宅困難やガソリンの購入困難、放射能の問題があったことを知る。 ・もし、今地震があったら、自分の安全や家族の安全、家族と会う方法など、一次避難した後どんなことがあるか想像する。
	1	○千葉県内で起こった自然災害について調べる。 仮説1 手立て① ・千葉県内で過去に起こった自然災害を調べ、まとめる。 ◎自然災害からくらしを守るために、だれが、どのような取り組みをしているのだろう。

自分で 取り組 む	5	○国や県、市、地域の取り組みについて調べる。 ・インターネットで調べる。 ・「こども防災」や「じぶん防災」の資料を活用して調べる。 ・市役所の危機管理課の方の話を聞く。 ・いには野地区の自主防災会の方の話を聞く。	仮説2手立て① 仮説1手立て② 仮説1手立て②
広げ深 める	1 1	○家族の方へのインタビューをもとに、「自助」について考える。 ○インタビューで聞いたことを、共有する。	仮説2手立て①
まとめ 上げる	2	○「わたしだけの防災マニュアル作り」をする。 ④国、県、市、地域の人たちが、災害に備えたり、計画を立てたり、 様々な取り組みをしている。	仮説2手立て②

8 授業の実際と仮説の検証

【仮説1】

身近な地域における災害を教材化することで、自然災害や人々の対応について理解し、自然災害を身近に捉えることができるであろう。

【手立て①】地域素材の教材化

授業の実際

学習の流れ	児童の反応
○東日本大震災の時、本校や学区内で起きた被害状況などの話を聞く。  ○これまでに千葉県内にどのような自然災害が起こったか調べ、ワークシートにまとめる。	【児童のふりかえり】 ・家に帰れなくて、学校に残った人がいたということを初めて知った。 ・わたしのお父さんも東京で働いているから災害があったら帰ってこれないかもしれないとわかった。 ・ガソリンが買えないことがあったなんて知らなかった。お母さんにガソリンが半分より少なくなったら入れるように教えようと思う。 【児童のふりかえり】 ・千葉県には予想よりもたくさんの自然災害が起きていたことに驚いた。 ・私が生まれる前、何十年何百年前にも自然災害があったことを知り、ぞくぞくとした。 ・千葉県の海側には津波の被害があった。 ・自然災害はいつきてもおかしくないから怖いと思った。

○わかったことを振り返る。	・これから自然災害について調べて、対策をしていきたいと思った。 ・災害が起きた時、自分でできることは自分でやるようにしたいと思った。
---------------	---

【手立て②】ゲストティーチャー等の地域人材の活用

授業の実際

学習の流れ	児童の反応
○市役所の危機管理課の方の話を聞く。 市の防災倉庫の中を見る。 	【児童のふりかえり】 ・市の防災倉庫には、ご飯、ラーメン、おかき、クラッカーなどたくさんの食料や水が備蓄してあった。 ・食料のほかに、折りたたみ式ヘルメットや発電機も入っていることを初めて知った。 ・家でも非常食を買って備えたいと思った。 ・令和5年の豪雨の写真を見て、地震も怖いけど、大雨も怖いことを知った。 ・哺乳瓶や車椅子もあり、驚いた。 ・食べ物はお湯を入れるだけで作れるものばかりだった。
○自主防災会の方の話を聞く。 地域の防災倉庫の中を見る。 	【児童のふりかえり】 ・自治会も訓練をしたり、計画を立てたり私たちの安全のためにやってくれている。 ・地域の防災倉庫があるのを初めて知った。 ・地域の防災訓練に参加してみたいと思った。

【仮説1検証】「自然災害や人々の対応について理解し、自然災害を身近に捉えることができたか。(第11時)」

評価基準（評価方法：振り返りカード）

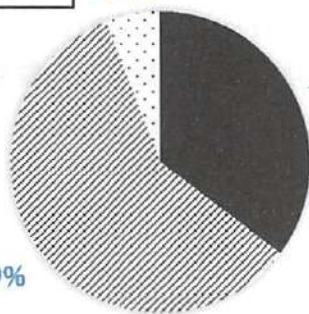
評価	評価基準	文例
A	自然災害や人々の対応について理解が深まった。	「災害はいつ起こるか分からないから、早めに準備することが大事だと思った。」
B	自然災害や人々の対応について理解できた。	「自然災害はとても怖いものだを知った。」 「国、県、市、地域で自然災害の備えをしているを知った。」
C	自然災害や人々の対応について理解ができていない。	「いろいろな話を聞いてよかった。」 「防災マニュアル作りができてよかった。」

児童 35 名中 34 名回答

C, 6%

A, 35%

B, 59%



学区の自然災害を教材化し、ゲストティーチャーを活用することで、自然災害が自分の身近に起こるものだと理解できた。また、市や地域の自治体が協力していることの話聞くことで、地域の関係機関や人々が協力していることの理解につながった。

【仮説2】

自ら問いを持ち、必要な情報を活用すれば、起こりうる災害を想定し、自分にできることを考えることができるであろう。

【手立て①】問いの解決に向けた情報の提示

学習の流れ	情報の提示方法・児童の反応
「こども防災」  	<情報の提示方法> ・「こども防災」「じぶん防災」を共有アプリ上で児童に配布した。そうすることで、いつでも必要な時に確認することができた。 ・「こども防災」は漫画やワークシートがあり、児童にとってわかりやすくなっている。災害について知るきっかけや興味関心を持たせることができた。

「じぶん防災」



「写真の提示」



- ・「じぶん防災」は備蓄品の例などが載っている。また、ゲーム方式で防災について学べるサイトもあり、児童が興味関心を持つきっかけになった。

<児童のふりかえり>

- ・大雨で道路がうまってしまっている写真を見て、びっくりした。
- ・印西市は最近、自然災害はないと思っていたが、令和5年に大雨で田んぼは湖のようになっていて、電柱も半分くらいまで水が来ていた。そのことを聞いて災害が怖くなった。
- ・大雨や地震の写真をみて、自然災害の怖さを知って、家で災害の備えをしているか気になった。

【手立て②】 わたしだけの防災マニュアル作り

授業の実践

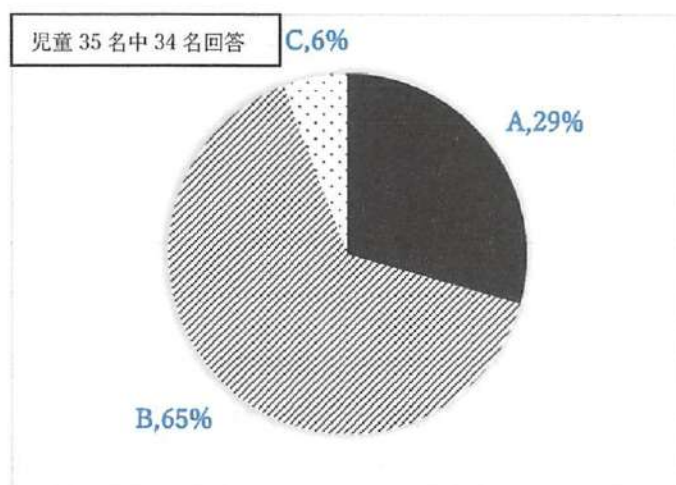
学習の流れ	児童の反応
○市や地域の方は災害に備えて計画を立てていたことを振り返る。 ○市や地域の計画は市全体や地域全体の計画であり、「わたしだけの防災マニュアル」が必要だと気付かせる。	【児童のふりかえり】 ・防災マニュアルを実際に作ることによって自分の家の対策などがよりわかった。 ・もし、地震や自然災害が起きたら、防災マニュアルを見て対応したいと思った。

○自分の家で起こりうる災害に対する備えを考えてマニュアルの作成に取り組む。 ○作成したマニュアルを見ながら、「これでいつ起こるかわからない災害に対してもう安心か」を問いかけ、自分の行動等に注目させる。 ○習い事や帰省先など様々な場面を想定してマニュアルを改善していく。	・「自分にあった」を考えてマニュアル作りができた。 ・マニュアルでおばあちゃん家編をつくったので、おばあちゃんの家を持ち出し袋がどこにあるかわかった。
---	---

【仮説2検証】「起こりうる災害を想定し、自分にできることを考えられたか。」

評価基準（評価方法：わたしだけの防災マニュアル）

評価	評価基準	活動内容
A	起こりうる様々な災害を想定し、防災マニュアルを作成した。	・自分の地域や行動範囲などから起こりうる災害を様々な想定し、防災マニュアル作りを行った。
B	起こりうる災害を想定し、防災マニュアルを作成した。	・自分の地域や行動範囲などから起こりうる災害を想定し、防災マニュアル作りを行った。
C	災害を想定し、防災マニュアルを作成した。	・災害を想定し、防災マニュアル作りを行った。



自ら問いを持ち、必要な情報を活用することで、X児のように、災害を漠然と恐れるだけでなく、持ち出し袋の必要性や中身の確認など、自分にできることを考えて行動することができた。また、「わたしだけの防災マニュアル作り」を行うことによって、自分だけでなく、おばあちゃんのことも考えてマニュアルを作成した。

<X 児の第 2 時のふりかえり>

国や県は、わたしたちのために、いろいろな取り組みをしていることを知りました。自然災害がおきる前もおきた後も、いろいろな取り組みをしているのに自然災害は、まだ、怖いと思いました。

<X 児の第 11 時のふりかえり>

わたしだけの防災マニュアルを、おばあちゃんの家編もつくったのでおばあちゃんの家で地震が起きたときでも持ち出し袋の場所や避難場所がわかるのでつくってよかったと思いました。学習する前は、そこまで持ち出し袋に食料など入っていないだろうと思っていただ、たくさん入っていたのでおどろきました。すごくたくさん入っていたので避難のときに持てるのかなと思っただけと持ってみたらそこまで重くなく持てました。でも、たくさん入っているけど、3日～1週間くらいしかないそうです。持ち出し袋の中身を見て賞味期限を調べたら、今年の6月のやつもあつてはやく食べないと思いました。

<X 児の作った防災マニュアルの一部>

わたしだけの防災マニュアル		わたしだけの防災マニュアル	
自分の家編	4年 1組 名前	おばあちゃんの家編	4年 1組 名前
地震がおきたら・・・	避難する場所 人数・・・4人 持ち出し袋がある場所・・・1階の寝室 ☆一時避難場所☆ 萩原公園 ☆指定避難場所☆ いには野小学校 ☆特定避難場所☆ ふれあいセンターいんば	地震がおきたら・・・	避難する場所 人数・・・7人 持ち出し袋がある場所・・・おしいれ ☆指定避難場所☆ 安食小学校
①机の下にかくれる ②ゆれがおさまったら、家族全員いることを確認する ③持ち出し袋が持てる状況だったら持ち出し袋を持って安全なところに避難する	持ち出し袋の中身 濡けつ用品など 食料など 水・トイレ・レインコート 電池・ラジオなど	①机の下にかくれる ②ゆれがおさまったら、全員いることを確認する ③持ち出し袋が持てる状況だったら持ち出し袋を持って安全なところに避難する	持ち出し袋の中身 おにぎり・レインコート・ブルーシート・食糧箱・非常用ろうそく・懐中電灯・ウォータールー・ロープ・スプレー・フォーク・ナイフ・缶切り・お皿・コップ・コンロ・水2L12本 乾電池3本
連絡先 母携帯・・・090-XXXX-XXXX 父携帯・・・090-XXXX-XXXX 救急・・・119 警察・・・110 災害用伝言ダイヤル・・・171		連絡先 母携帯・・・090-XXXX-XXXX 父携帯・・・090-XXXX-XXXX 救急・・・119 警察・・・110 災害用伝言ダイヤル・・・171	

9 成果と課題

(1) 成果

- 津波の危険、液状化の危険、揺れやすさなどの危険の少ない地域においても「自分だけの防災マニュアル作り」を単元のゴールに設定することで、様々な場面を想定して災害に備えて何をすればよいか考えることができた。
- 2人のゲストティーチャーを招くことで、この地域ならではの被害を知ることができた。また、市の防災倉庫、地域の防災倉庫の中を見ることで地域の関係機関が協力して災害に備えていることを理解することができた。
- 今回の学習を通して、家庭で防災について話し合うきっかけをつくることができた。

(2) 課題

- 理解が深まった児童は、自分にできることを進んで思考できるようになった児童が多いことから、身近な地域のさらなる教材開発に取り組んでいく必要がある。
- 地域素材を教材化するにあたり、東日本大震災の関係者を探すことが難しかったので、各学校の人材や協力者をリストアップしておいて、今後の学習に生かせるようにしていきたい。
- 最後まで、災害を身近なものと捉えられなかった児童もいた。今後、体験施設等を活用して、実際に体験する学習をすることも考えられる。

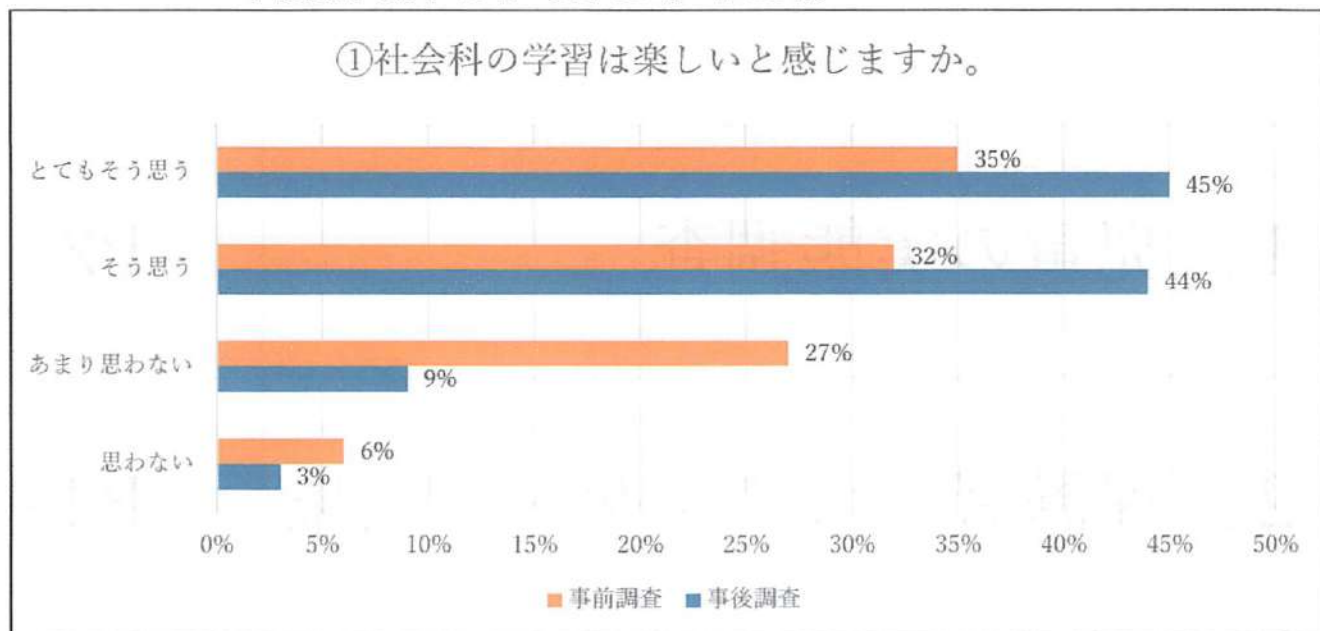
資料編

目次

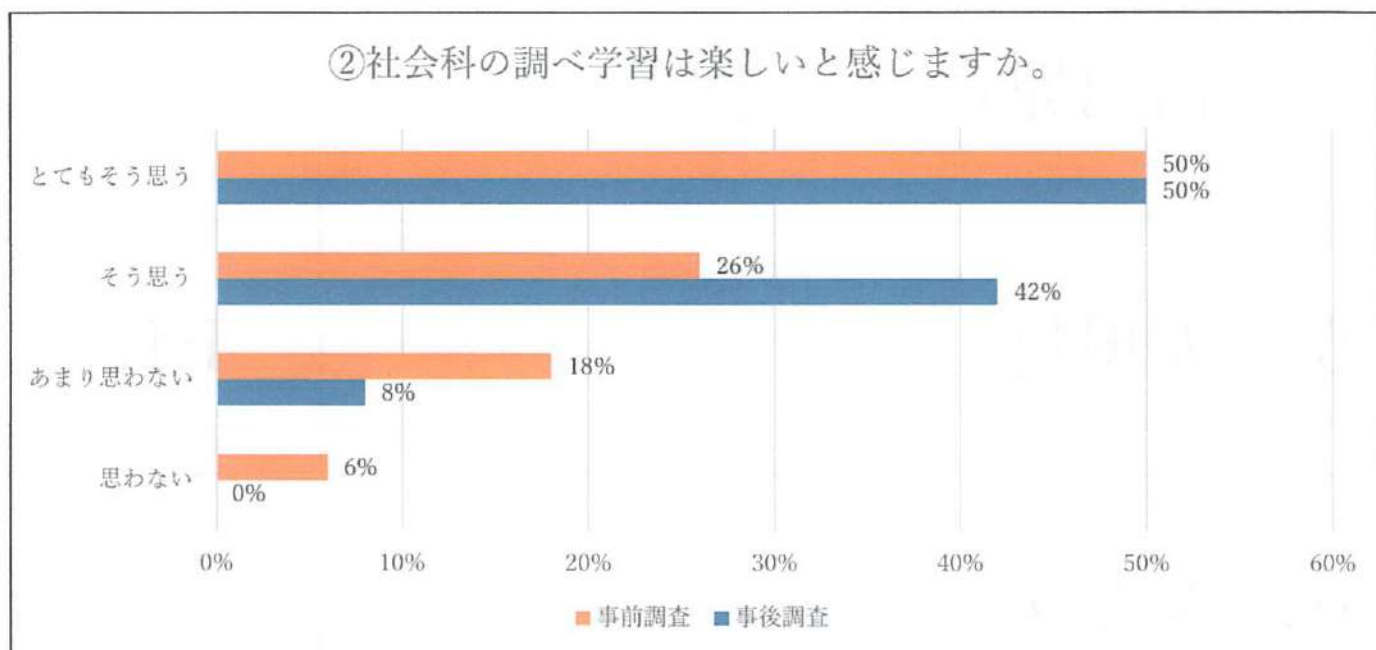
項目	ページ番号
1. 児童の実態調査	P2
2. 保護者へのアンケート結果	P4
3. 仮説 1、2 の構造図	P6
4. 抽出児童の感想等	P8
5. 表現物	P12
6. 参考文献等	P17

1. 児童の実態調査 事前調査（男子 14 名 女子 20 名 計 34 名）

事後調査（男子 14 名 女子 20 名 計 34 名）

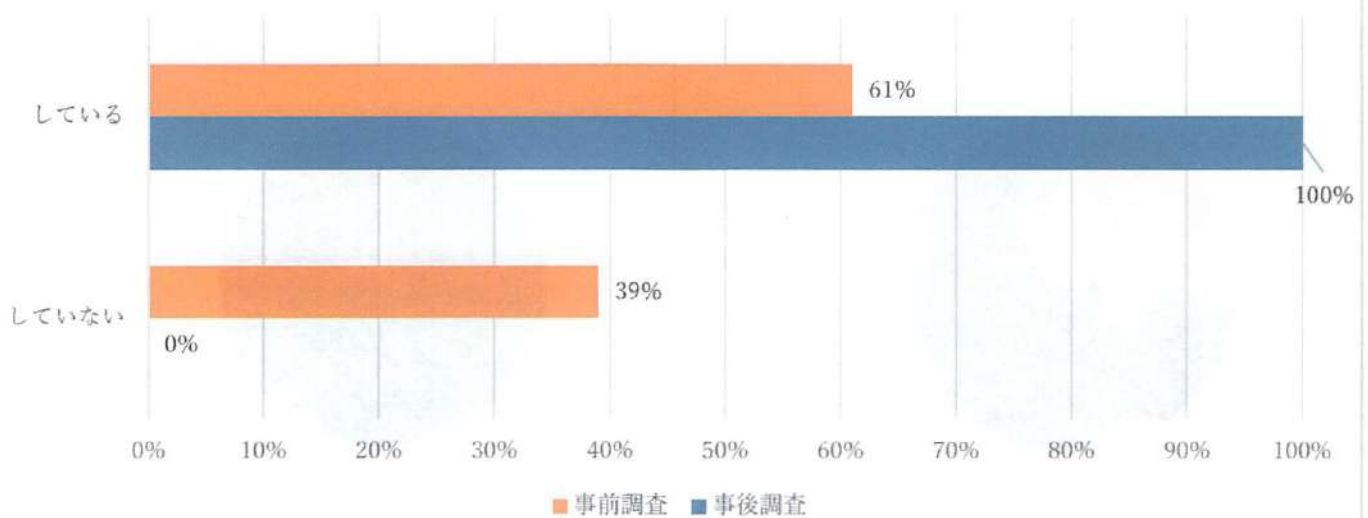


- ・社会科の学習を楽しんでいると思いますか、という質問に「あまり思わない」と答えた児童が大きく減り、肯定的な回答が増えた。
- ・「わたしだけの防災マニュアル作りが楽しかった」という意見や「防災倉庫を見たり、ゲストティーチャーの話を聞いたりすることで、新しいことが知れて楽しかった」と答える児童がいた。
- ・自然災害を身近に捉えることで、社会科の学習が楽しいと感じたのだと考えられる。



- ・事前調査では、調べ学習に対して否定的に答えた児童の多くは、「苦手」が理由であった。事後調査では、調べ学習で新しいことが知れることやわからないことを自分で調べることの楽しさを感じる児童が増えた。
- ・問いの解決に必要な情報を提示することで調べ学習が楽しいと感じる児童が増えたと考えられる。

③自然災害に対して、備えをしていますか。



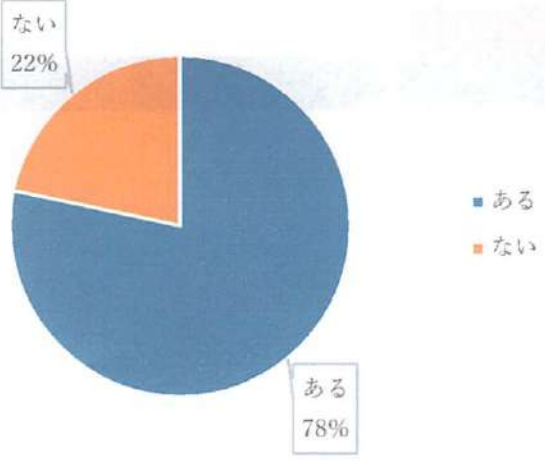
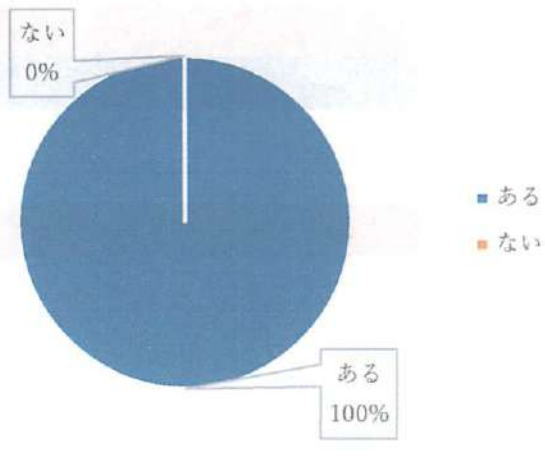
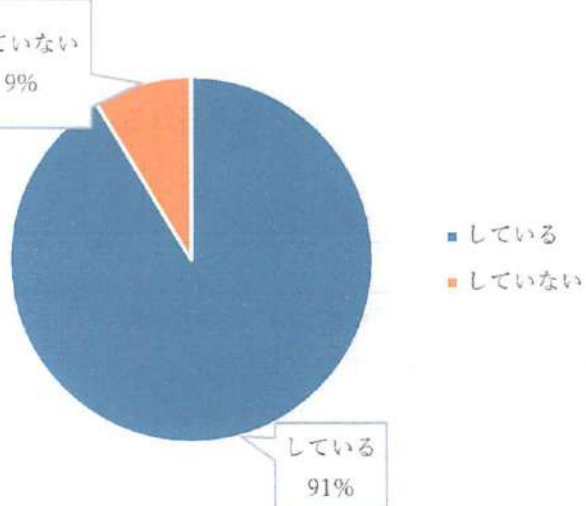
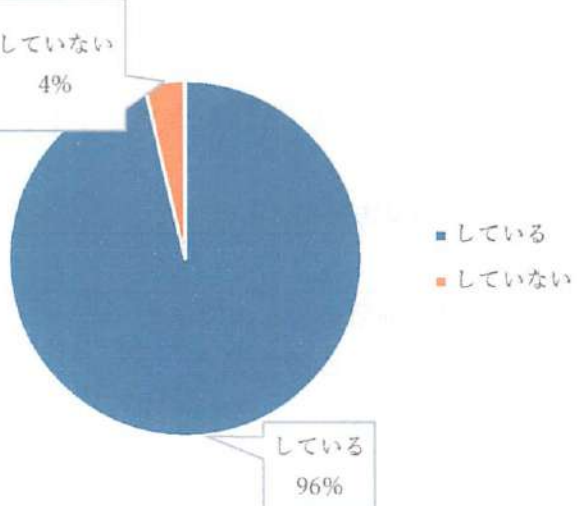
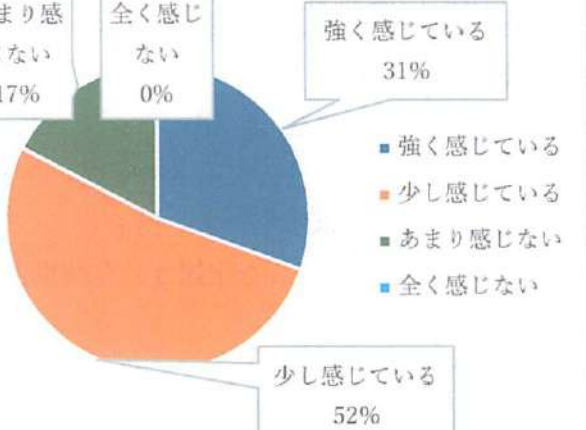
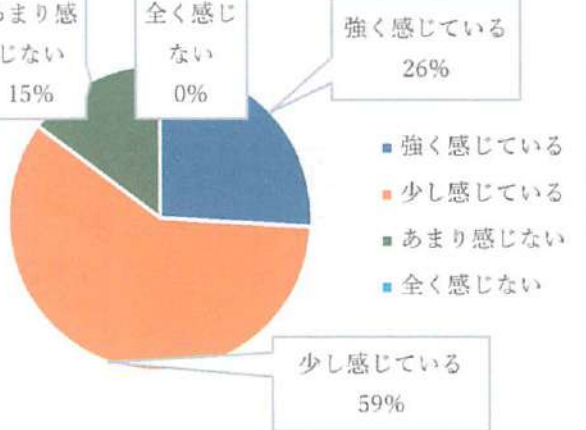
- ・自然災害への備えをしてないと回答する児童が1人もいなくなった。事前調査で「していない」と答えた児童の理由を見てみると、何を備えるかわからないが6人、知らない1人、起きないだろうと思っているが1人、わからないが5人だった。それらの児童が、備えをしていると回答できるようになった。
- ・自然災害に対して、備えをしていない4割の児童が備えをするようになった。
- ・備えの大切さを理解し、自分でもできることをしようと行動していったのだと考えられる。

④ 自然災害に備えて自分にできることはなんだと思いますか。(複数回答)

事前調査	事後調査
・防災グッズや備蓄をする (12人) ・避難場所を確認する (9人) ・分からない (3人) ・訓練する (2人) ・自分の身を守る (1人) ・高いところに避難する (1人) ・近づかない (1人) ・親と話し合う (1人) ・心構えをする (1人) ・無回答 (3人)	・防災バックなどの備えをする (20人) ・避難場所を確認する (10人) ・家族の連絡先や連絡方法を決める (2人) ・違う場所でも避難できるようにする (2人) ・バックをすぐに取り出せるようにする (1人) ・家具の固定をする (1人) ・バックの中身を知っておく (1人) ・バックの中の物の使い方を知っておく (1人) ・親と話し合う (1人) ・近所の人と仲良くする (1人)

- ・自然災害に備えて、自分にできることとして、「防災バックなどの備え」や「避難場所の確認」などの人数が増えている。また、「近所の人と仲良くする」という共助につながる回答をできる児童もいた。
- ・事後調査では、防災バックの中身に関する記述や違う場所にいることを想定した記述など自然災害への備えが具体的に変容した。
- ・「分からない」「無回答」の児童が、自分にできることを考えられるようになった。

2. 保護者へのアンケート結果

事前調査 (35 名中 23 名回答)	事後調査 (35 名中 27 名回答)																				
① 自然災害が起きてしまったとき、どうするか家族で話したことはありますか？																					
 事前調査の結果: 78%の保護者が「ある」と回答し、22%が「ない」と回答した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ある</td> <td>78%</td> </tr> <tr> <td>ない</td> <td>22%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	ある	78%	ない	22%	 事後調査の結果: 100%の保護者が「ある」と回答し、0%が「ない」と回答した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ある</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>ない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	ある	100%	ない	0%								
回答	割合																				
ある	78%																				
ない	22%																				
回答	割合																				
ある	100%																				
ない	0%																				
② 自然災害に対して備えをしていますか？																					
 事前調査の結果: 91%の保護者が「している」と回答し、9%が「していない」と回答した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>している</td> <td>91%</td> </tr> <tr> <td>していない</td> <td>9%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	している	91%	していない	9%	 事後調査の結果: 96%の保護者が「している」と回答し、4%が「していない」と回答した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>している</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>していない</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	している	96%	していない	4%								
回答	割合																				
している	91%																				
していない	9%																				
回答	割合																				
している	96%																				
していない	4%																				
③ 災害が発生したとき、自分や家族が被災する可能性を感じていますか？																					
 事前調査の結果: 52%の保護者が「少し感じている」と回答し、31%が「強く感じている」と回答し、17%が「あまり感じない」と回答し、0%が「全く感じない」と回答した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>強く感じている</td> <td>31%</td> </tr> <tr> <td>少し感じている</td> <td>52%</td> </tr> <tr> <td>あまり感じない</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>全く感じない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	強く感じている	31%	少し感じている	52%	あまり感じない	17%	全く感じない	0%	 事後調査の結果: 59%の保護者が「少し感じている」と回答し、26%が「強く感じている」と回答し、15%が「あまり感じない」と回答し、0%が「全く感じない」と回答した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>強く感じている</td> <td>26%</td> </tr> <tr> <td>少し感じている</td> <td>59%</td> </tr> <tr> <td>あまり感じない</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>全く感じない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	強く感じている	26%	少し感じている	59%	あまり感じない	15%	全く感じない	0%
回答	割合																				
強く感じている	31%																				
少し感じている	52%																				
あまり感じない	17%																				
全く感じない	0%																				
回答	割合																				
強く感じている	26%																				
少し感じている	59%																				
あまり感じない	15%																				
全く感じない	0%																				

<今回の学習で子どもたちにどんな力が身についたと思いますか？>

知識

- ・災害が起きたときにその時の状況に応じてどうしたら良いか、また災害についての知識力が身についたと思います。
- ・少しでも知識があるだけで生き残る方法が分かったと思う
- ・防災について興味関心を持ち、災害が起きたとき自分の安否を知らせる方法や自分の家の備蓄品の把握、日頃の備えについての知識が身についたと思います。

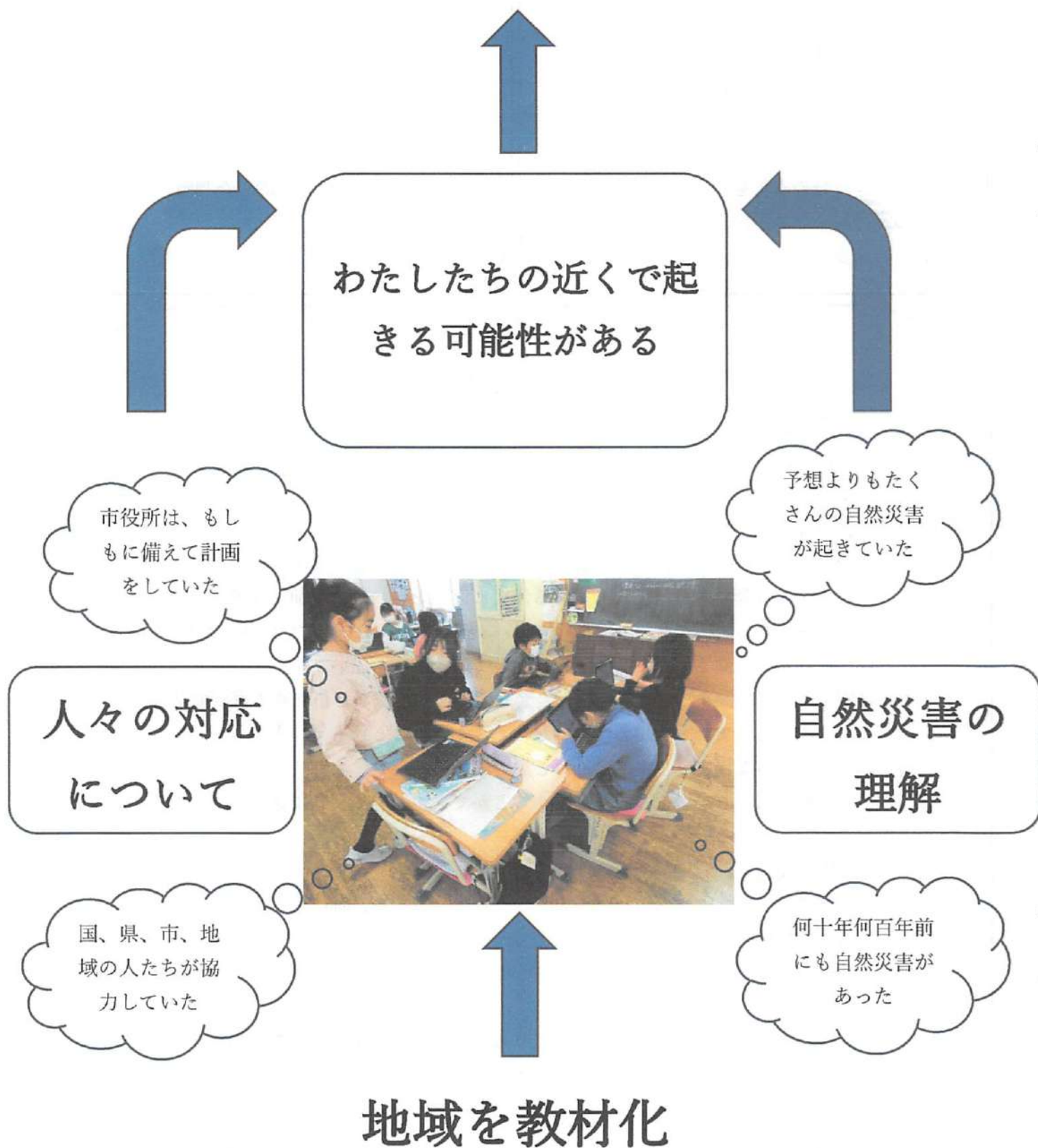
命の大切さ

- ・災害時に自分の命を一番大事にすることや、避難する場所について理解し行動すること。
- ・命の大切さ・災害の怖さ・防災の知識が身についたと思います。
- ・災害時における危険性、必要なもの、安全を確保するための的確な判断。

備えの大切さ

- ・災害は実際に起こった時のことを想像し、その時どう動けば良いのか具体的なことが理解できたのではないかと考えます。そして、普通に生活できることの有り難さを学んだと思います。
- ・自然災害の怖さや、どれだけ備えが大切なのかをしれたと思います。
- ・災害がおきた時の行動、災害に対する備えについて学べたと思います。お友達との情報交換を通じて、自分の家との災害に対する備えに違いを見つけ、以前より敏感になったように感じました。また、この防災学習の授業を通じて家族で話すいいきっかけになりました。これから、備えの面でもう少し強化していきたいと思います。
- ・災害に対する意識が高まったと思います。緊急時の連絡方法など新ためて家族で話合う機会になりました。また家で足りない物がたくさんあることにも気づきました。いつ災害が起きても困らないように準備したいと思いました。
- ・日頃から、何が起こるか考えながら過ごすことができ、冷静に判断できるようになったと思います。
- ・様々な災害の知識と、避難、備えることを意識しました。
- ・災害時にどのように行動するのか、予想したり考える力・災害時にどうすべきかなど
- ・災害に対する危機管理・落ち着いて行動、考える・防災バックの重要性
- ・災害の時に自分がどのような環境に置かれるか、その上で普段からどのような準備がひつようか
- ・災害が起きた時に落ち着いて行動できるように避難場所や必要なものを確認できた
- ・被災した時に必要な物が分かったと思います。

自然災害を身近に捉える子



自分にできることを考えられる子



習い事へ行っているとき災害があったらどうしよう

おばあちゃん家は海の近くだな

起こりうる災害を想定

じぶん
防災

こども
防災

写真の
提示

インタ
ビュー

必要な情報を活用

今、災害が起きたら、どう避難すればよいだろう？

備えに必要な物は？

災害が起きたらどんな被害があるのだろう。

自分の家は何かしている？

自ら問いを持ち

4 抽出児童の感想等

(1) 仮説1

「身近な地域における災害を教材化することで、自然災害や人々の対応について理解し、自然災害を身近に捉えることができるであろう。」

実際のふりかえり	
A	この学習を通して、私は自然災害がおこったときは他の人がなんとかしてくれると思ってたし、備蓄品はそんなにないと思っていたけど、この学習をしてみて、自分でできることはやることと、備蓄品は備えて準備されていることを知りました。そして、何より、色んな災害に備えて、地域の人や、チームを組よりみんなが安全に避難できるようにしていることがわかりました。防災マニュアルでは、自分だけというのもあるけど、いつ災害がおきて、一人でも避難できるようになどマニュアルは作ってもしものときのために、使えることを改めて知りました。 災害はいつ起こるかわからないし、その日に防災バックを用意してないかもしれないから備えあれば憂いなしのように早めに準備することが大事だと思いました。 自助、公助、共助がすごく大事だと思いました。家族全員が持ち出し袋の位置だったり、非常食のおいてある位置を把握してみんなが逃げるのが一番大切だと思いました。 学習する前と学習したあとだと災害はすごく恐ろしいんだ早く非常用のものを準備しなきゃといけなくなったから災害が起きてからすぐ逃げられるようになりました。
	<考察> ・「他の人がなんとかしてくれる」という考えから「自分でできることはやる」と考えられるようになった。 ・自分だけでなく、家族のことまで考えた振り返りができている。
B	最初に国や県が自然災害に備えて、ひちくなどをしてたということを知って、そこからさらに市や地域でも自然災害の備えをしていたということを初めて知った。防災倉庫の中を見させてもらったときに、こんなにたくさんの非常食や防災用具が入っているということをこの学習をして初めて知った。国や県、市、地域で自然災害の備えをしていると知って、安心したけど、家庭でも食料や防災用具などをもっと用意しておきたいと思った。 ・自然災害は全然知らなかったからこの学習を通して、自然災害はとても怖いものだと思った。 ・自然災害へのそなえをとってもしなくて自然災害は危ないものだと思えた。 ・防災倉庫が色んな場所にあることを知らなかった。 ・自然災害の学習をする前は家庭ではそなえをしているのは全然知らなかったけど自然災害の学習を通して家庭で自然災害へのそなえをしていると知ってすこし安心した。
	<考察> ・国、県、市、地域で自然災害の備えをしていることを理解している。 ・自然災害の怖さや備えの大切さを理解している。 ・家庭で備えをしていることで安心し、自分の問題として主体的に関わることができていない。
C	ひじょうようもちだしぶくろがあるのを知りました。 いつ自然災害が起こるかわからないからできるだけすぐに避難できるようにするのを知りました。 社会で災害の色々なことや実際に東日本大震災にあった人にいっぱい聞いて学習をできた。
	<考察> ・自然災害に対する理解の深まりがなく、地域の関係機関や人々が協力しながら自然災害に対応していることを理解できていない。

抽出児童の感想の変容

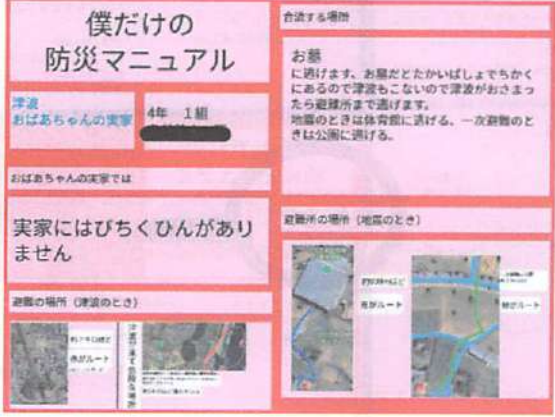
	抽出児童 V 児の振り返り	評価	抽出児童 W 児の振り返り	評価
第 2 時	私は、自然災害で地震を調べたりして、 <u>当時地震にあった人はどんなに怖かったのか知ることができました</u> 。自然災害は色々あるけど、地震だったら東日本大震災が一番勉強した中で印象に残っています。そして話してくれた放射能も調べて見たら、放射能をたくさん浴びてしまったら、吐き気など、脱力その他にもあるんだそうです。	B	ふりかえり 千葉県にも、たくさん被害があったと知りました。	C
第 4 時	この学習をして私は印西市では自然災害にそなえて国や県と協力しながら計画を立てて自然災害の備え・対策をしていることがわかりました。自然災害の対策を印西市で行っている内容がこんなにあるのがわかりました。例えば交通の復旧です。交通の復旧は印西市がしているものだと知りませんでした。私は交通の復旧は、県が行っているものだと思っていました。だけど、印西市は自然災害に備えて何をしているのかを学習して、印西市が行っていることがわかりました。そして、備蓄倉庫は、県が行っているのではないのかと思いましたが、それも市が行っていることを勉強して、自然災害のことがわかりました。	B	印西市では自然災害がいつきても大丈夫なように計画を立てて対策をしていることと、県と国と市で協力して居ることがわかりました。私は国や県しか自然災害に備えてないと思ってたけど今回の学習をして市も協力をしてやって居るんだと知りました。	B
単元終了後	この学習を通して、私は自然災害がおこったときは他の人がなんとかしてくれると思ってたし、 <u>備蓄品はそんなにないと思っていたけど、この学習をしてみて、自分でできることはやることと、備蓄品は備えて準備されていることをしれました</u> 。そして、何より、色んな災害に備えて、地域の人や、チームを組よりみんなが安全に避難できるようにしていることがわかりました。防災マニュアルでは、自分だけというのもあって、いつ災害がおきて、一人でも避難できるようになどマニュアルは作ってもしものときのために、使えることを改めて知りました。	A	防災マニュアルを作った自然災害が来ても大丈夫なように水や食料などの備えや、逃げる場所を確認できたのと備えをしてあるんだと知れたのが良かったです。学習で学んだことは国や県だけが備えをしているんじゃない、市や地域でも備えをしていることがわかりました。	B
分析	- 調べ学習までは、知識の理解までしかできていなかったが、地域素材を教材化して学習していくことで、「自分でできることはやる」という考えを持ち、自然災害をより身近に自分事として捉えることができています。 「いつ災害がおきて、一人でも避難できるように」とふりかえり、自分の身近で自然災害が起こる可能性があると考えることができている。		- 学習し始めの第 2 時の時は、自然災害に対して漠然とした印象しかなく、ふりかえりもあまり書けていない。 - 調べる過程でゲストティーチャー等の話を聞いたり、防災倉庫を見せてもらったりしていくことで、国や県、市や地域の人々が協力して備えや計画を立てていることを理解することができた。	

(2) 仮説2

「自ら問いを持ち、必要な情報を活用すれば、起こりうる災害を想定し、自分にできることを考えることができるであろう。」

	実際の児童の表現物	考察
A	わたしだけの防災マニュアル 旅行に行っているとき 4年1組 名前 ホテルにいたときに地震が起きたとき ホテルの人の指示に従う。 ホテルにいたときに津波が起きたとき ホテルの一番高いところに避難する。 ホテルにいたときに大雨で外が水びたしになったとき あんまり外に出ない。もし外に出るときは長靴をはくなど外に出ても大丈夫なかつこうで出る。 ホテルにいたときに土砂災害が起きたとき ホテルの一番高いところに避難して山など土砂災害が起きているところと反対のところに避難する。	- 自分の地域や自分が旅行へ行っている場面を想定してマニュアルを作ることができた。 - ホテルにいたときに起こりうる様々な災害を想定し、自分の行動を書くことができた。
B	わたしだけの防災マニュアル 自然災害 2025年2月23日 4年1組 名前 避難する場所 一時避難場所・いには野小のグラウンド 災害時避難場所・いには野小のアリーナ 地域避難場所・いには小学校 避難用具 自然災害が起きたときにすること 命を守る行動を取る ①家具など落ちない場所に隠れる ②安全なスペースに避難(ソファ お風呂) ③避難用具取り出しやすい場所においておく ④備蓄や避難用具の用意 ⑤安全を確認してから外に出る ⑥火を消す ⑦危険だから机の下に隠れない 避難場所の過ごし方 ①家族と一緒にいる ②こまめな水分を取る ③塩分を取る ④食中毒に注意 ⑤こまめに睡眠を取る ⑥室内で火を使わない ⑦こまめにお休みを取る	- 起こりうる災害を想定して、自分の行動を書くことができた。 - 自然災害とひとまとまりで考えてしまい、災害ごとの行動の違いや対応の違いを書くことができなかった。
C	わたしだけの防災マニュアル 2025年3月2日 4年1組 名前 避難する場所 一時避難所・・・東の原公園 災害時避難所・・・原小学校 広域避難所・・・草深公園 避難用具(食品) 災害にあったらすべきこと ①地震が起きたら机の下に隠れる ②地震がおさまったら安全なところに避難する。 ☆持ち出し袋を忘れない！ もしものときのために 家族構成 4人 年齢 10歳 連絡ツールの確認 食料 水	最初に示した例の通りに作成していて、自分に必要な情報を考えることができていない。

抽出児童の変容

	抽出児童 Y 児の振り返り	評価	抽出児童 Z 児の振り返り	評価
第 2 時	㊦ 千葉県では東日本大震災のときに津波で旭市などとても被害があつて復帰するまでにとても時間がかかっている大変だと思いました。	B	千葉県にはあんまり被害がなかったけど宮城県とか震度が大きかったから避難訓練を本気でやろうと思いました	C
第 4 時	印西市では、いつ災害が来てもいいようにけいかくを立てていた、そして国や県とも協力をしていた。印西市ではいろいろなそなえをしていた。家でも家族で対策をしてみようと思いました。県では災害時地域のひと避難所運い委員会を作ってくれるのがとても心強いと思いました。	B	ふりかえり 市や県や国に頼らず自分にできることを自分でやったりする	C
防災マニュアル	僕だけの防災マニュアル  お他に自分の家での地震・火災に関するマニュアルを作成。 →5. 表現物参照	A	わたしだけの避難所マニュアル  お他に「火災マニュアル」「海のマニュアル」を作成。→5. 表現物参照	B
分析	- 自分の家だけでなく、あばあちゃんの実家にいるときに自然災害が起こることを想定して、あばあちゃんの実家のマニュアルを作ることができた。 - あばあちゃんの実家は海が近いことから津波の被害が起こるかもしれないことを考えることができた。 - 様々な情報を活用して、あばあちゃんの実家は災害時に必要な備蓄品がないことに気付くことができた。		- 第2時では、千葉県内の被害にも気付くことができておらず、自然災害は宮城県などの遠くの地域で起きていて、起こりうる災害を想定することができていない。 - 第4時では、自分にできることを自分でやろうと考えているが、具体的な行動は書かれていない。 - 防災マニュアル作りを通して、自分の地域の避難場所を書いたり海へ行った時を想定したり、起こりうる災害を考えられた。	

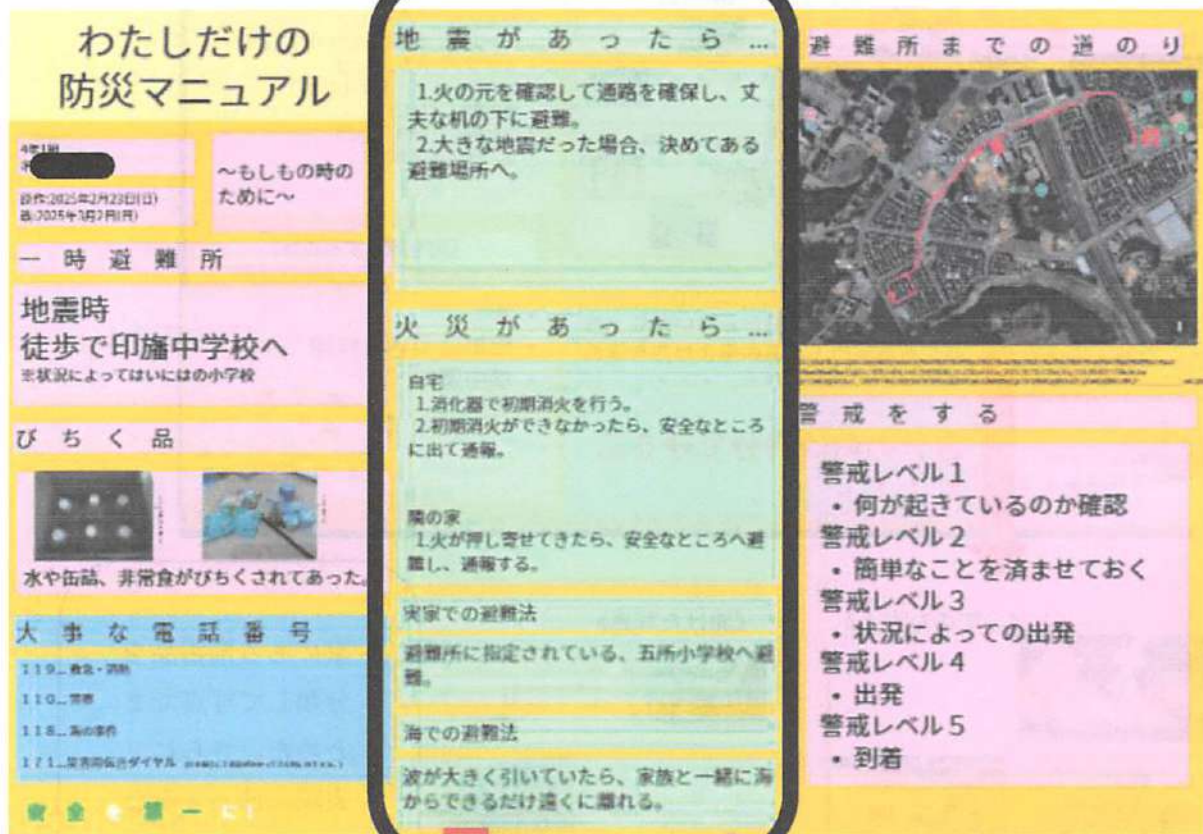
5 表現物

- ・災害ごとに1枚のカードにまとめた「わたしだけの防災マニュアル」

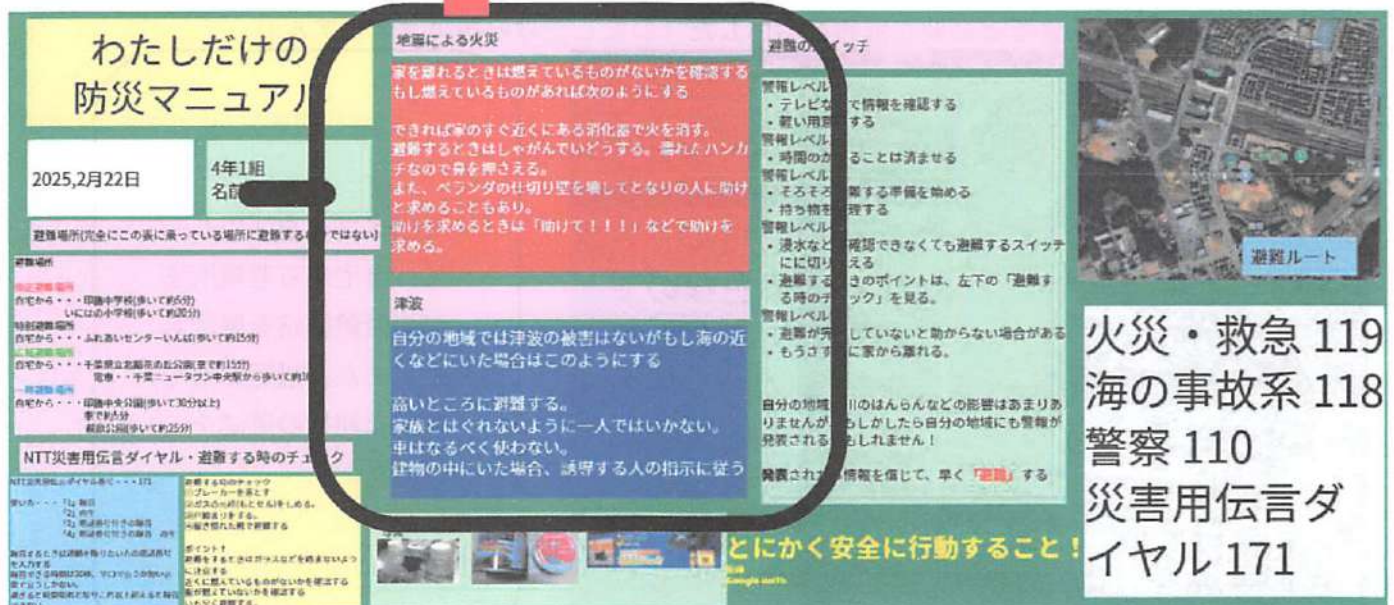


- ・「避難所」「火災」「海」の3つの項目で防災マニュアルを作成した。災害ごとに対応の仕方の違いをマニュアルにまとめることができた。
- ・「地震」「風水害」「津波」「土砂災害」「避難のこと」「もしものときの電話番号」の6つの項目で防災マニュアルを作成した。災害ごとに「避難するときに気をつけること」をまとめた。

・1枚にまとめることにこだわった「わたしだけの防災マニュアル」



- ・1枚の防災マニュアルにまとめることにこだわった。1枚であるが、起こりうる災害を様々な想定して、有事にマニュアルを手にとった時、わかりやすいように情報を厳選した。
- ・色分けや写真を活用して、見やすくした。



わたしだけの防災マニュアル

日 3月2日 (日曜日)

4年1組 名

緊急の電話番号

119 家の電話番号 110

118 災害伝言ダイヤル 171

《家族の集まり方 ひなん場所》

- ・ 印旛中学校 (いっぱいひなんしている人がいた)
- ・ いには野小学校のジャングルジム
- ・ 悪い事は悪い事の先生の指示にしたがう。し教室を出た時は、悪い事の教室に戻る。

《写真》

《食べ物》

《全ての写真↓》

《開けた写真》

《飲み物》

《その他・色々な物がセット》

《まとめ》

災害はいつくるかわからないから、食材や避難場所・家族の集まり方を決めて置くこと。とにかく、・・・

自分の命は自分で守ること!!

《食材・必需品》

- ・ かんずめ (3こ)
- ・ 水を入れてできるおにぎり (1こ)
- ・ カップラーメン (1こ)
- ・ 長期保存ができる水 (2こ)
- ・ 懐中電灯 (1こ)
- ・ カセットコンロ (1こ)
- ・ ガスボンベ (3こ)

《何を用意するのか》

- ・ 水
- ・ 簡単にできる料理
- ・ 懐中電灯



・ 家にある備蓄品を分類して写真でまとめた。さらに、実際に使ってみたり、開けてみたりすることでもしもの時に自分でも使えるようにしていた。

・ 地図アプリや防災マップなど必要な情報を活用した「わたしだけの防災マニュアル」



・ 地図アプリを活用して、自宅から避難所までの避難経路を確認した。また、最短距離や頑丈な建物の確認を行った。

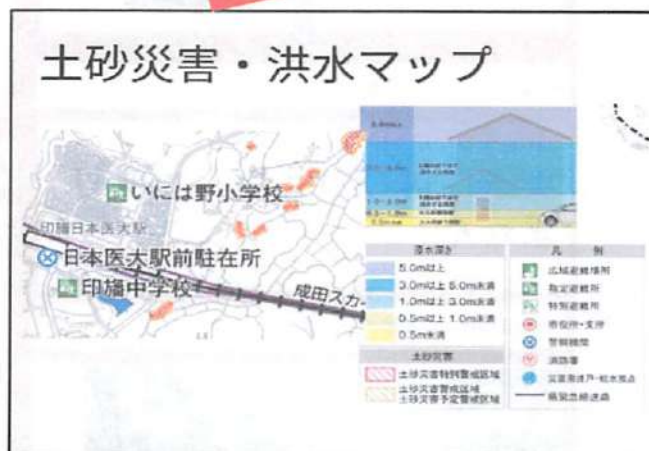
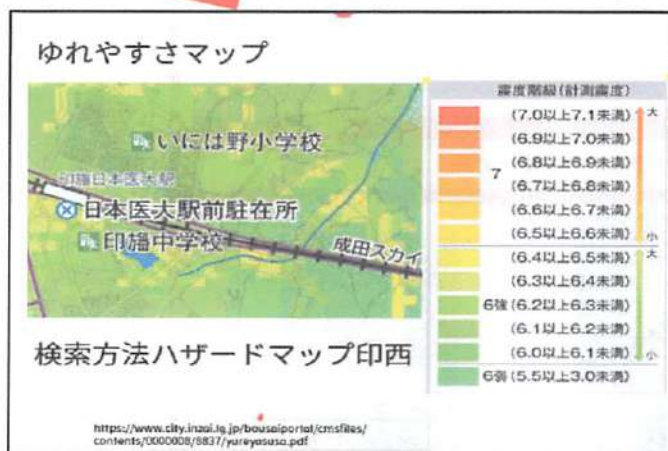
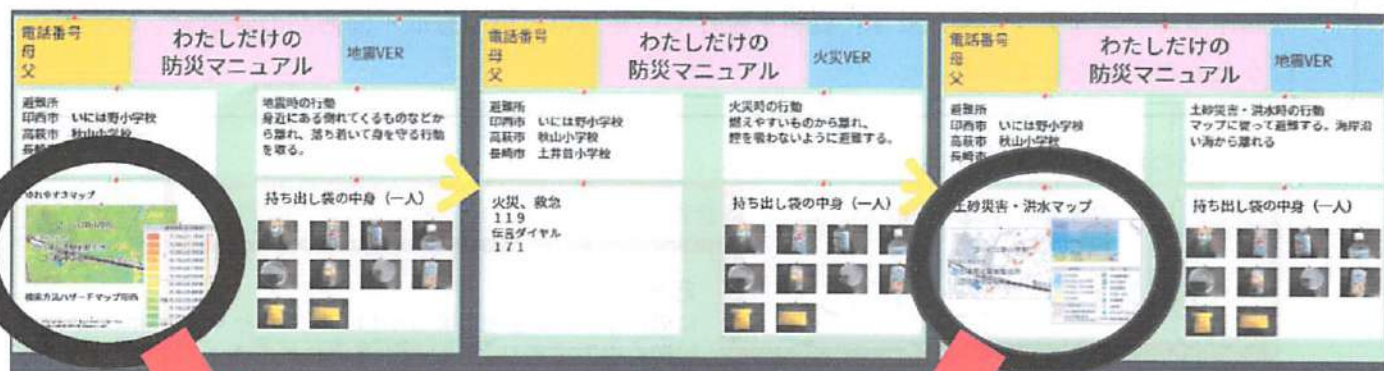
避難のルート

いには野小学校
のアリーナ編

4年 1組
名前

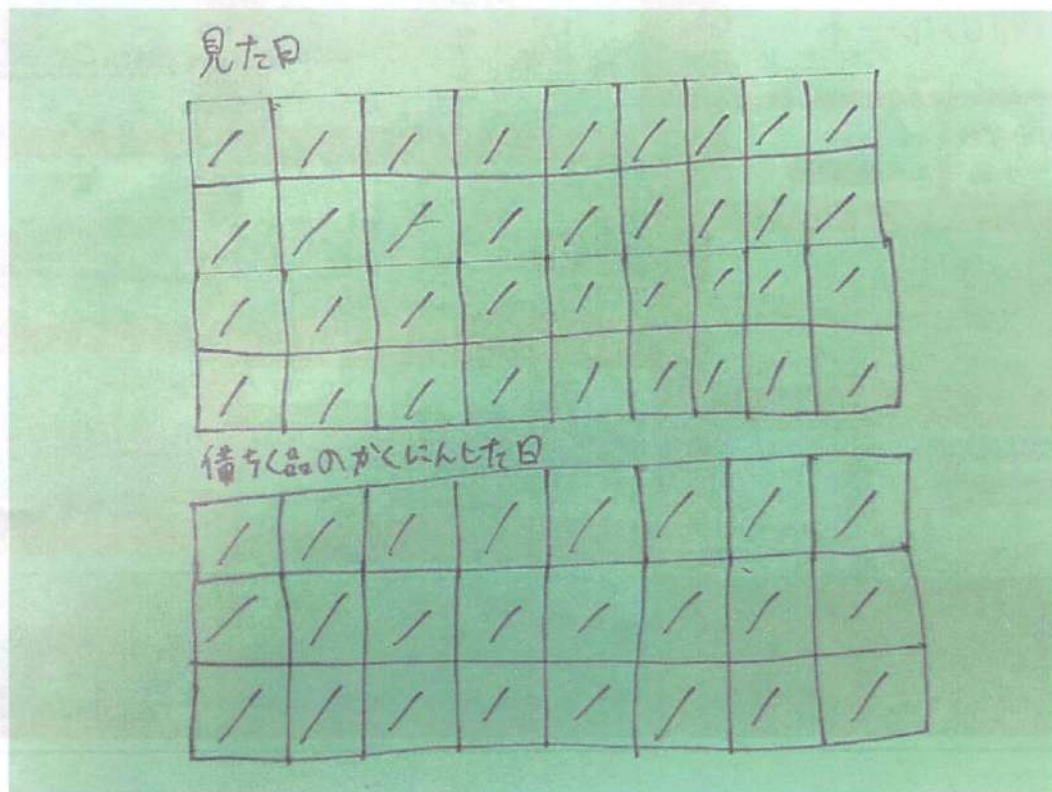


・地図アプリを活用して、写真で避難経路の道のりを確認した。危険箇所等の確認も合わせて行っていた。



・自分の防災マニュアルに「ゆれやすさマップ」「土砂災害・洪水マップ」をのせた。

- ・裏表紙に工夫をした「わたしだけの防災マニュアル」



- ・裏表紙に「見た日」と「備蓄品を確認した日」を確認した日付を書けるように表を作った。
- ・今回作ったマニュアルで満足せず、更新を続けていきたいという意欲や備蓄品の確認を忘れずに行うための工夫をしていた。

- ・抽出児童 Y 児のわたしだけの防災マニュアル

僕だけの 防災マニュアル

津波
おばあちゃんの実家

4年 1組
名前 XXXXXXXXXX

おばあちゃんの実家では

実家にはびちくひんがありません

避難の場所（津波のとき）

約7キロほど
赤がルート

津波が来て危険な場所
約5キロほど覆れている

合流する場所

お墓
に逃げます、お墓だとたかいばしょでちかくにあるので津波もこないで津波がおさまったら避難所まで逃げます。
地震のときは体育館に逃げる、一次避難のときは公園に逃げる。

避難所の場所（地震のとき）

約800mほど
青がルート

緑がルート

6. 参考文献等

○小学校学習指導要領解説 社会編 文部科学省

○ICT×社会 GIGA スクールに対応した1人1台端末の授業づくり 藤原光政 明治図書出版株式会社

○東日本大震災に社会科はどう向き合うか 日本社会科教育学会 明石書店

○じぶん防災 <https://www.pref.chiba.lg.jp/bousaik/jibun/jibunbousai.html>

○こども防災 <https://www.pref.chiba.lg.jp/bousaik/jibun/chishiki/kodomobousaidl.html>